JLAC11材料コード表の読み方

1. 概要

JLAC11の第3要素である材料コード（3桁の文字列コード）は、検査材料を識別するために用いる。

材料コードは、他要素には従属しない、独立したコードとして付番する。

1. コード表の構成

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| # | 項目 | 説明 | 例 |
| １ | 材料コード | 材料を一意に定義するコード | 210 |
| ２ | 材料名 | 材料コード対応した名称 | 全血(静脈血) |
| ３ | 備考（１） | 対応するJLAC10の材料コード | 018 |
| 4 | 備考（２） | ♯1~♯3に関連する備考 | 推奨コード等（※1） |

（※1）推奨コード

　原則として検査材料は “推奨コード” と指定された分類により、付番する。

但し、検査目的や検査材料としての適否の判断のために、さらに詳細な分類を要する場合にあっては、他のコードを用いることを妨げない。

1. 基本ルール

主な用途別にコード帯を下表のように定める。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| # | コード帯 | 用途 | 例 |
| １ | 100～699 | 検体検査、微生物検査 | 尿（100）、血清（250） |
| ２ | 700～899 | 臓器、組織部位 | 皮膚（711）、リンパ節（721） |
| ３ | 900～999 | その他 |  |

1. 用語に関する注意点

* 血液材料における “添加物” には、一般的な抗凝固剤に加え、プロテアーゼ阻害剤(アプロチニンなど)あるいはその他の薬剤等も含む。